

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(団体用)

I 基本事項

整理番号 326

事業名	南あわじ市老人クラブ連合会補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	長寿福祉課		款	民生費・3款
電話	0799 - 44 - 3005			項	社会福祉費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠		目	老人福祉費・3目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務	(法令、条例、要綱等)		南あわじ市老人クラブ社会活動促進事業等補助金交付要綱	
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱		安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_		
	まちづくりの目標		延ばせ健康寿命_【健康】		
	施策目標		高齢者の生きがい活動や就業の場、癒し・消費の場を広げる		

II Plan&Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

事務概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人を、構成員内訳)			
		南あわじ市老人クラブ連合会(市内に居住するおおむね60歳以上の者。1単位クラブ50人以上で構成され205単位クラブある。連合会は、4支部、205クラブの集まりで結成され、役員は37名で構成され			構成人数(人) 12,416
		活動目的(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 南あわじ市内に於ける各支部老人クラブ相互の連絡調整を図り、老人福祉の拡充強化並びに社会福祉の増進に寄与することを目的とする。また、未来を担う次世代の育成支援活動や各々の地域の特色を活かした様々な活動に取り組む等、高齢者の世紀にふさわしい老人クラブづくりを積極的に推進する。			
	実施内容	(主な事業、活動内容等) 全国三大運動である「健康をすすめる運動」「在宅福祉をささえる友愛活動」「社会奉仕」を中心に実施。また、社会参加活動として、子ども会や保育・教育・福祉関係の諸団体との連携協力のもとに、世代間交流事業等を実施。特に、次世代を育成するための地域における子育て支援事業を行っている。単位老人クラブにおいては、老人クラブの基礎となるクラブ活動の拡充強化を図るため、会員加入の促進、特に若手委員の加入促進に積極的に取り組む等、老人クラブの活性化の推進を図っている。			
	団体の概要	平成17年1月11日合併時に結成。4支部(旧4町)で組織されている。単位クラブ数は205クラブ。(緑支部14クラブ、西淡支部54クラブ、三原支部55クラブ、南淡支部82クラブ) 役員は、205単位クラブのクラブ長があり、市老人クラブ連合会の役員は、各支部から選出し、37名で構成されている。 活動内容・目的は、上記の内容である。事務局は、連合会本部を長寿福祉課、支部事務局を各総合窓口センターに設置している。			
		事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input type="checkbox"/> 補助団体	<input checked="" type="checkbox"/> 市役所	<input checked="" type="checkbox"/> 市単位 連合会(長寿福祉課) <input checked="" type="checkbox"/> 旧町単位 4支部(各総合窓口) <input type="checkbox"/> 旧村単位 単位クラブ()
	補助金算出根拠	【単位補助金】1単位クラブ 120,000円 内訳 活動強化推進事業 60千円、単位助成事業 60千円(5千円×12月) 【支部活動費】3,650,000円 内訳 支部活動費(緑500千円、西淡455千円、三原1,478千円、南淡1,217千円) 【連合会活動費】2,175,000円 内訳 本部運営費956千円、健康づくり1,219千円			
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし				
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯) <input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 1単位クラブ120,000円で統一する。旧郡老連を市老連の組織とし活動する。また、4支部(旧4町)の活動を残し、支部より役員を選出し、市の役員を構成する。				

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
資源配分 インパクト	直接事務費 (千円)	30,526	30,466	30,425	30,192
	老人クラブ補助金	30,526	30,466	30,425	30,192
	事務局事務費(市が事務局の場合)				
	財源 (千円)				
	国				
	県	16,597	16,789	16,356	16,474
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	13,929	13,677	14,069	13,718
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
	年間経費([A]+[B])	13,929	13,677	14,069	13,718
	「構成人数」一人当り経費 (千円)	1.1	1.1	1.1	1.1
受益者人数(12,416)一人当り経費(千円)	1.1	1.1	1.1	1.1	
経費に関する 補足説明	前年度より本部運営費削減				

Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 今後、高齢者人口が増加し、高齢社会になる中、多年にわたって培ってきた知識や経験等を老人クラブを通じ活かしながら、地域社会の一員としてその役割を担っていくことが期待される。今後も、会員の加入促進や子育て支援、高齢者の見守り活動等の事業を強化しなければならないと思われる。	自己評価 (5点評価) 4						
	公共性の高低 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低							
必要性	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 少子高齢化が急速に進展するなかで、老人クラブが実施している子育て支援事業や高齢者の見守り活動などを通じ、地域社会での貢献性は益々、重要性を増すものと思われる。	自己評価 (5点評価) 4						
	自己評価をふまえた現状分析 少子高齢化の進行等、社会情勢が急速に変化し、社会・経済情勢が大きく転換する中において高齢者が多年培ってきた経験や知識等を活かした活動は今後も必要であると思われる。特に、昨今における単独老人世帯の見守り活動や、子育て支援活動は、クラブ活動の一環として実施しており、今後はさらに活動が強化されるものと期待できる。							
総合評価	<div style="text-align: center;"> <p>評価グラフ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用対効果</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>必要性</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> </div>	項目	評価	費用対効果	4	必要性	4	
項目	評価							
費用対効果	4							
必要性	4							

IV Action&Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input checked="" type="checkbox"/> 予算削減
	<p>支部運営助成について、県老連負担金分を除いて19年度比15%削減をしている。</p>	<p>単位クラブ120,000円/クラブの補助基準への見直し。 本部・支部運営費等是一部削減されているが、単位クラブについては現状を維持しているため、今後は検討する必要性が生じるとと思われる。</p>
(現状維持以外の改善方法)		単位老人クラブ補助金の見直し
改善によって期待される効果		補助金の削減
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>老人クラブ等の補助金を削減した場合、現在実施している子育て支援や見守り活動、清掃等奉仕活動への影響が多大である。また、各支部等で実施しているスポーツ等を通じた健康づくり活動への影響も懸念され、ひいては、医療費、介護保険費への影響も考えられる。また、活動が盛んな老人クラブ活動が休止になった場合には、他の団体への影響も大きいと考えられる。</p>	